

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1493700023
法人名	医療法人社団 平平會
事業所名	グループホーム ふあいと青葉
訪問調査日	平成21年7月7日
評価確定日	平成21年8月25日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1493700023
法人名	医療法人社団 平平會
事業所名	グループホーム ふあいと青葉
所在地	227-0036 横浜市青葉区奈良町2467-5 (電話) 045-960-0788

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成21年7月7日	評価確定日	平成21年8月25日

【情報提供票より】(平成21年6月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・ 平 18年 7月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	26 人	常勤	10 人, 非常勤 16 人, 常勤換算 14.2人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	68,000 円	その他の経費(月額)	34,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (360,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 /無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1260 円				

(4) 利用者の概要(6月27日現在)

利用者人数	16名	男性	5名	女性	11名
要介護1	7名	要介護2	3名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 78.6歳	最低	65歳	最高	88歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	緑協和病院・金子歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは医療法人社団平平會の経営であり、関連施設として有料老人ホーム(はなみずき)、グループホーム6つを展開している。医療に関するノウハウを活用し、つくいけ内科の江口先生とはなみずき常駐の看護師により、24時間対応体制を整備し、医療連携体制を実施し、ご利用者さんのターミナルケアについてはご家族が希望されれば対応出来る体制を整えている。フロアリーダーに救護に携わった有経験者がいて、運営推進会議の防災委員と協力しあい、年々地域に広がった防災訓練等を企画中であり、特別な知識を活用した地域への貢献が期待出来る。グループホーム内の防災実習は消防署の協力を得て実施している。個人の記録についてはパソコンで作成していたが、記入を手書きに戻し、その人の肉声を忠実に再現することとした。このことにより気軽に記入出来るため個人の記録が生き生きしたものとなり、残存能力を生かすケアの提供に有効であることは前回述べた通りである。職員で看護師の資格を有する人がおり、週1回勤務している。定着してくれたら、ご近所の医療相談にも活用出来たら貢献出来ると考えている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>今年度取り組んだことは元気なうちに出来るだけ外出の機会を持たせてあげることである。自家用車を利用するのではなく、公共のバスを利用した外出の展開である。心配したが大丈夫であった。バスに乗り、青葉台まで行き、レストランやユニクロに行き買い物を食事をして帰ってくるコースであるが、車に比べて身だしなみなども考える、ご近所や運転手、バスのお客とのふれあいにより社会性が保たれ、本人の出来ると思う気持ちが大きい。1ヶ月1回の外出を楽しみにするようになった。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、項目によっては記入しにくい項目もあり、記入に悩むケースもあるのでカンファレンスで、お互いに意見を出し合って収集する方式で行うこととした。この集約をホーム長、フロアリーダーで行い自己評価を纏めた。外部評価に関してはプロセスでの気づきや指摘事項につき改善策を纏め改善して行くことにしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は定期的に、コンスタントに開催出来ている。但し、自治会長を始とするメンバーの方々は多忙であり、現状は2~3ヶ月に1回のペースでの開催となっている。メンバーは自治会長、前自治会長、ご家族、オブザーバーとして地域包括支援センターの方が参加している。会議日程については運営推進会議終了時に次回開催を決める方式が定着しており、最終土曜日に開催も概ね定着したので地域包括支援センターの方も予定して頂けている。地域包括支援センターのある奈良地域ケアプラザとは交流が深く連携は良い。先回の会議に地域の防災委員の方が参加してくれて具体的な討議が出来た。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ホームを開所、入居募集の時に敢えて急がず、近隣の入居を促進する方法を取った効果があり、同じ町内の方が数人入居して頂けた。このことでその近隣の入居者を通じた近隣の繋がりが生まれ、ご近所から入居した方の娘さんが、昼食時、いなり寿司を作ってくれるなど地域に密着した良い関係が生まれている。職員は「利用者がかげがえのない人」との意識を持ち、一緒に生活する家族と考え過ごしている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域との関係は順次広がっている。①シルバークラブの毎朝の体操にご近所の主婦のボランティアと一緒に参加している。②奈良地域ケアプラザ主催の催しにはご招待を頂き参加している。障害者作品のパザーなどもあり買い物も楽しんでいる。③ご近所のボランティアでは囲碁のボランティアなどは定期で来てくれている。④町内会の催しでは火曜サロンがあり沢山参加している。⑤敬老の日、X'mas、こどもの日などにはご近所にも声をかけ、ご近所の方の参加と協力をお願いしている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	近隣町内からの入居者は勿論のこと、全入居者がこの地域の一住人であることを、職員一同常に念頭において日々の業務にあたっている。自治会・シルバークラブの厚意により毎朝(日曜日除く)近くの公園でラジオ体操に参加している。その送迎ボランティアの方々と入居者は親密の度合いが増してきている。		今後も継続して実施して行く。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に従い、入居者を年長者として敬意を払い極力、介護者然としないよう職員一同実践を心掛けている。各入居者の残存能力の発見に努め、出来る事の維持に努めている。		今後も継続して実施して行く。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の一員として可能な限り行事に参加して、地域の方々と交流が持てるよう努めている。奈良地域ケアプラザ主催の催しにはぎ招待を頂き参加している。障害者作品のバザーなどもあり買い物も楽しんでいる。ご近所のボランティアでは囲碁のボランティアなどは定期で来てくれている。町内会の催しでは火曜サロンがあり沢山参加している。	○	今後はグループホームへ地域の方々を招く行事を考えたいと検討している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	年に一度の外部評価が全職員の格好のふり返りに役立っている。項目によっては記入しにくい項目もあり、記入に悩むケースもあるのでカンファレンスで、お互いに意見を出し合って収集するようにしている。	○	自己評価での振り返り・反省が次のステップにつながるよう努めて行く。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2~3ヶ月に1度実施している運営推進会議での意見交換を有意義に考えている。4月実施の会議では、自治会の防災委員の出席を得て、防災の協力体制を改めて確認できた。委員の好意的意見・アドバイスを職員の士気高揚に結びつけて行きたい。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	特に近隣の奈良地域ケアプラザとは連絡を取り合い、指導を受ける機会を作っている。今後も包括支援センターを介して行政と連携し、サービスの向上を図って行きたい。		今後も継続して実施して行く。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時や電話などで折に触れ、連絡を密にする努力をしている。	○	お便りについては不定期で日頃の様子の写真を郵送しているが、定期的な発行をしたいと検討中。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望を遠慮なく表明していただける関係作りを心がけている。契約書にも相談窓口の連絡先を明記し、また匿名でも意見を表明できるよう意見箱を設置している。面会や電話を通して家族等の意見・要望を聞くよう努め、可能な限り要望に沿うようにしている。		今後も継続して実施して行く。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	止むを得ずの異動、離職は免れないが、チームケアにより、入居者への支援が損なわれぬよう配慮している。		産休、育休を経て2年ぶりに復職した職員を入居者は喜んで迎え入れ、また退職した元職員が時折訪ねて入居者と交流を図ることもある。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には「利用者にはかけがえのない人」との意識を持ち、一緒に生活する家族と考え過ぎてもらうようにしている。		今後も継続して実施して行く。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会に属し、他ホームとの交換研修を実施している。また近隣のケアプラザとは連携を密にしている。他ホームとの交換研修で視野の拡大、自身のふり返りができ有意義だった。近隣の奈良地域ケアプラザにも研修をお願いし、集団でのレク活動の運営を学ぶ機会をもった。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホーム見学の際、既入居者様の輪に加わってお茶を飲んだり一緒に談話するという機会を作って、ホームの雰囲気になじめるよう配慮している。		今後も継続して実施して行く。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常業務で常に留意していることは、職員は介護するのではなく、共に生活する視点を保つことである。伝統行事・家事に関すること・人のかかわり合い方など、入居者から学ぶ姿勢を失わないよう努めている。	○	新しく入職した職員にも特に指導を強調している点である。今後も現在の視点を継続していきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員はできる限り個別にコミュニケーションをする努力をし、各人の考えや希望を生活に反映させる工夫をしている。外食・カラオケなど入居者それぞれの希望を可能な限り実現する調整をしている。		今後も継続して実施して行く。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族と話し合う機会を持ち、望ましいケアプラン作成を心がけている。入居者を深く観察し、望ましい生活を継続していただくため、全職員がケアプラン作成ができるよう勉強会を始めている。	○	勉強会を今後も継続して実施して行く。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	具体的・現実的なケアプラン作成に努めている。変化に応じて見直しを図っている。日常的な介護の対応変化は申し送り等で柔軟に変更し各人の状況に応じるよう留意している。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居前の相談の段階から、経験豊富な相談員が、行政や他事業所の利用も紹介しながら、最善の支援を心がけている。	○	年毎に入居者の高齢化に伴い、病状に応じて生活のあり方を家族と相談し法人内の看護師とも連携を深めていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内のつくいけ内科の週一回の医師の往診、二週に一回看護師の訪問で、入居者の医療面の支援が継続的にできている。	○	昨夏以来往診医師が変更になり、入居者に戸惑いが見られたが、新しい医師との信頼関係をつくるべく職員が努力しているところである。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時契約に、医療加算と終末期医療に関する説明、同意書を交わしており、また必要な時期には面接や電話連絡において医師・看護師、ホーム、ご家族、本人の意識と方針の共有を図っている。		医師・看護師と相談しながら、入居者の最善の方法を考えていきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に年長者に対する言葉かけをするよう努め、誘導が必要な場合にも指示的な言動を避ける事を徹底している。記録には個人情報配慮してイニシャルで記する事になっている。		日頃から職員が最も配慮すべき点であると心がけ業務に当たっている。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の体調に留意しつつ、ひとりひとりのペースを尊重した暮らしに努めている。現在は個々の日課が自然に出来上がり、個々の趣味や日課に没頭する姿も見られ、家庭的な雰囲気がかもし出されている。共同生活としての全体性と個人の自由さのバランスの取り方が課題でもある。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日活発な調理風景がみられており、入居者はほぼ全員調理に参加、張り合いを持っているように見受けられる。男性入居者も自発的に配膳や片付けに参加している。入居者の活発なお手伝いをより円滑にするため、最近は調理当番制にして、当番以外は別の作業をしていただくなど、嬉しい工夫が職員に必要なになっている。		今後も継続して実施して行く。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	おおむね1日おきのペースで体調に応じて入浴を実施している。季節に応じて入浴剤や菖蒲湯を用い、楽しい入浴を提供しようと努めている。		今後も継続して実施して行く。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各入居者の生活歴をかんがみ、昔とった杵づかを活かし、役割や娯楽を日課に取り入れる工夫を重ねている。家庭菜園、カラオケ、囲碁将棋、手芸など、趣味活動が広がりつつある。	○	現在の支援にとどまらず、新しい発見をする努力もして行きたい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調に応じて、近隣の散歩、食料品の買い物や外食など、できるだけ戸外へ出かけることにより、体力や歩行能力の維持に加え、気分転換や日々の充足感を得られるよう配慮している。毎週火曜日は近くのケアプラザへ散歩を兼ねて数名が翌日のパンを買いに行く日課が約2年続いている。		今後も継続して実施して行く。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	構造上、玄関はオートロックのドアであるが庭の水まきや散歩など、職員の見守りの上で、自由に出入りできる雰囲気を大切にし、閉塞感がないように配慮している。		安全に配慮しながら、水撒きや菜園作業を入居者の意思を尊重して自由に行っていたらいい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の避難場所を確認し、緊急移動用の車椅子を確保している。また、緊急時は職員を招集できるよう、連絡網を作成している。以前から住んでいる地域住民の親身な協力が、緊急時にも生かされることにも期待している。消防計画を作成し、訓練を実施している。	○	地域の防災訓練などには積極的に参加して行きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日を通して食事量・水分摂取量を記録、一月に一度は体重測定をし、低栄養や脱水におちいらないよう配慮している。糖尿病などで栄養管理の必要な方にも、医師の指示のもと、適切に支援をしている。摂食障害が懸念される入居者には、盛り付けの工夫、声かけで十分な食事摂取に努めている。		今後も継続して実施して行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適性に配慮してBGMになじみの曲を流し、季節の花を飾るなどの工夫をしている。日差しはカーテンで調整している。入居者の年代に心地よいBGMが穏やかな雰囲気づくりに役立っている。季節毎にテーブルかけを替え、気分転換を図っている。		今後も継続して実施して行く。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居段階で、ご自宅から使い慣れた家具類を持ち込んでいただけるようお勧めし、馴染みの雰囲気、自宅であるという実感と安心感を得られるよう、配慮している。仏壇や、思い出の写真なども飾り、これまでの生活の延長として暮らせる配慮をしている。毎月、本人手作りのカレンダーを壁に貼り、居室の装飾として喜ばれている。		今後も継続して実施して行く。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ふあいと青葉
(ユニット名)	1F
所在地 (県・市町村名)	神奈川県 横浜市 青葉区 奈良町 2467-5
記入者名 (管理者)	中山倫子
記入日	平成 21 年 6 月 27 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	近隣町内からの入居者は勿論のこと、全入居者がこの地域の一住人であることを、職員一同常に念頭において日々の業務にあたっている。	○	自治会・シルバークラブの厚意により毎朝(日曜日除く)近くの公園でラジオ体操に参加している。今後もさらに積極的に地域に溶け込む機会を作りたい。その送迎ボランティアの方々と入居者は親密の度合いが増してきている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入居者を年長者として敬意を払い極力、介護者然としないよう職員一同実践を心掛けている。	○	各入居者の残存能力の発見に努め、出来る事の維持に努めていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族等には入居契約時に詳しく説明している。地域の方々には運営推進会議等を通じて、日常生活を報告している。	○	自治会の月1回実施される委員会に参加して地域との協力・連携を深めたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ゴミ集積所の清掃当番の一員として、職員が積極的に地域に溶け込む努力を続けている。	○	毎朝のラジオ体操参加の際は、送迎のボランティアの厚意を受けている。また、囲碁ボランティアの来訪があり、入居者が心待ちにしている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の一員として可能な限り行事に参加して、地域の方々と交流が持てるよう努めている。	○	自治会や近くのケアプラザでの行事には入居者が喜んで参加している。今後はグループホームへ地域の方々を招く行事を考えたいと検討している。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症の通所介護的な拠点となれるよう検討していきたい。	○	定期的実施する運営推進会議を通して地域の高齢者福祉(医療)の協力者になれるように努力したい。
---	--	-----------------------------	---	--

3. 理念を実践するための制度の理解と活用

7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	年に一度の外部評価が全職員の格好のふり返りに役立っている。	○	自己評価での振り返り・反省が次のステップにつながるよう、職員が一丸となる必要を強く感じている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2～3ヶ月に1度実施している運営推進会議での意見交換を有意義に考えている。4月実施の会議では、自治会の防災委員の出席を得て、防災の協力体制を改めて確認できた。	○	委員の好意的意見・アドバイスを職員の士気高揚に結びつけ、さらなる業務の励みにしたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	特に近隣の奈良地域ケアプラザとは連絡を取り合い、指導を受ける機会を作っている。	○	今後も包括支援センターを介して行政と連携し、サービスの向上を図っていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度の利用を検討している入居者がいるので、職員も共に学ぶ機会を持った。	○	間近にあり得る実践として捉え、学習を深めていかねばならない。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会を行い、細心の注意を払って介護に努めている。介護者が意図せぬ行為が広義の虐待にあたることもあることも留意している。	○	介護者の心身の健康を保つことが安定した介護につながることを、更に肝に銘じ、職場の環境作りを努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	---------------------------------	------	----------------------------------

4. 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約書・重要事項説明書を通して詳しく説明を行い、疑問を残さず入居していただく努力をしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は出来る限り利用者と個別にコミュニケーションをとるよう努め、そこで得た意見を尊重している。また、行政と管理者の連絡先を苦情相談窓口として玄関先に明記している。	○	食事の好み・外出希望等日常的に入居者の意見・要望を表明できる関係作りを心がけている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や電話などで折に触れ、連絡を密にする努力をしている。	○	不定期でお便りや日頃の様子の写真を郵送しているが、定期的な発行をしたいと検討中。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望を遠慮なく表明していただける関係作りを心がけている。契約書にも相談窓口の連絡先を明記し、また匿名でも意見を表明できるよう意見箱を設置している。	○	面会や電話を通して家族等の意見・要望を聞くよう努め、可能な限り要望に沿うようにしている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回介護職員会議を実施し、話し合う機会を作り検討、改善を図っている。必要があれば毎月行われる法人のグループホーム会議に議題として提案している。	○	今年度から3ヶ月に1度法人のリーダー会議を実施することになり、より多様な意見交換が前向きに出されることを期待している。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の体調変化等に応じて、必要ならばシフトの調整を図り、入居者様の安全確保に努めている。	○	ユニットに限定せず、全職員が2ユニット入居者の状態変化に対応できるよう努めている。夜勤者は1, 2F協力しあう事も徹底している。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	止むを得ずの異動、離職は免れないが、入居者への支援が損なわれぬよう配慮している。	○	産休、育休を経て2年ぶりに復職した職員を入居者は喜んで迎え入れ、また退職した元職員が時折訪ねて入居者と交流を図ることもある。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み			

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会に属し、他ホームとの交換研修を実施している。また近隣のケアプラザとは連携を密にしている。	○	他ホームとの交換研修で視野の拡大、自身のふり返りができ有意義だった。近隣の奈良地域ケアプラザにも研修をお願いし、集団でのレク活動の運営を学ぶ機会をもった。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人内で親睦会があり、交流と気分転換を図る機会を作っている。	○	管理者は意識的に職員とのマンツーマンの話し合いの機会を設け、意見交換・ストレス解消ができるよう努めたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は日報を確認し、職員の勤務状況を把握している。入社時の研修やレポートを通しての意思表示を推進し、また定期的に全職員の自己評価を実施。努力や実績を公平に評価している。	○	今年度からユニットのリーダー会議が3ヶ月に1度実施することにより、より現場の声が運営者に届くことが期待される。

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居者宅を訪問してお話を聴く機会を作っている。さらにできる限りグループホームの見学をしていただき、安心感を得られるよう努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居者宅への訪問・ホームの見学・電話相談など納得いくまで相談を受け容れる配慮をしている。	○	最近入居の家族は、入居前数ヶ月にわたり相談されるというケースもあった。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の心身の状況を客観的・長期的に把握し、ご本人にとって最善の生活ができるよう支援している。		

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホーム見学の際、既入居者様の輪に加わってお茶を飲んだり一緒に談話するという機会を作って、ホームの雰囲気になじめるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常業務で常に留意していることは、職員は介護するのではなく、共に生活する視点を保つこと。伝統行事・家事に関すること・人とのかかわり合い方など、入居者から学ぶ姿勢を失わないよう努めている。	○	新しく入職した職員にも特に指導を強調している点である。今後も現在の視点を継続していきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の意向を常に尊重した支援に努めている。	○	昨年は敬老の日のお祝いに家族の日本舞踊の参加があり、おおいに盛り上がった会となった。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前の関係を理解するように努め、入居したことで、今までとは異なる良好な関係になるよう配慮している。	○	認知症の行動により、入居前は緊迫した関係にあった入居者と家族がグループホームでの生活により、穏やかな面会を過ごす事ができた例がいくつも見られている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方から入居された方もあり、以前のなじみの場への再訪は困難だが、なじみの方への電話のやり取りなどは継続する配慮をしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ウマが合う、合わないの関係が見え隠れするようになったが、孤独感を抱かず、折り合っでの共同生活の環境作りを日々工夫している。	○	家事参加の仕方で時にいさかいが生まれるが、職員はそれを一過性のものとして捉えるようにし、衝突の予防に工夫をしている。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期療養型病院に入院し、退居した入居者がいるが、時折職員が見舞ったり、家族から近況の連絡を受けたりの関係が続いている。	○	今後も退居した入居者のお誕生日などはお祝いの声かけなどして、入居者も含め関係を継続していきたい。

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員はできる限り個別にコミュニケーションをする努力をし、各人の考えや希望を生活に反映させる工夫をしている。	○	外食・カラオケなど入居者それぞれの希望を可能な限り実現する調整をしている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前面談で、必要な生活歴等は把握している。入居後は職員と関係を深める中で、さらに情報を得よう努力している。	○	日々できる限り個別にコミュニケーションを図ろうと努めている。ゆっくり対応する事で、問わず語りに入居者は生活歴を話すようになり、職員との関係作りから得た情報は、申し送りや連絡ノートで情報の共有化に努めている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	記録や申し送りで情報の共有化に努めている。	○	今年度も、全職員の課題が情報の共有化・ケアの統一であり、日々努力しているところである。

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族と話し合う機会を持ち、望ましいケアプラン作成を心がけている。	○	入居者を深く観察し、望ましい生活を継続していただくため、全職員がケアプラン作成ができるよう勉強会を始めている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	具体的・現実的なケアプラン作成に努めている。変化に応じて見直しを図っている。	○	日常的な介護の対応変化は申し送り等で柔軟に変更し各人の状況に応じるよう留意している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活記録・連絡ノート・申し送り等で情報の共有に努め、ケアプランへの導入・実践に努めている。	○	些細な状態変化でも見過ごさないよう、各職員の観察力の強化を課題としている。

3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居前の相談の段階から、経験豊富な相談員が、行政や他事業所の利用も紹介しながら、最善の支援を心がけている。	○ 年毎に入居者の高齢化に伴い、病状に応じて生活のあり方を家族と相談し法人内の看護師とも連携を深めていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近隣のケアプラザ、地区センターの行事には地域住民の一員として参加し、入居者の社会性の維持を図っている。近隣の交番に、必要時に捜索等協力していただけるよう、依頼している。	○ 非常勤職員に民生委員がおり、地域とのパイプ役を果たしている。地域の防災委員と連携をとり災害時の避難の協力体制を構築する取り組みを始めている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他事業所のケアマネージャーとも連絡を取り合い、関係作りをしている。	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	奈良地域ケアプラザの地域包括支援センターから、運営推進会議のオブザーバーとして参加していただいている。	○ 包括支援センターが近くにあり、何かと相談に乗っていただいている。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内のつくいけ内科の週一回の医師の往診、二週に一回看護師の訪問で、入居者の医療面の支援が継続的にできている。	○ 昨夏以来往診医師が変更になり、入居者に戸惑いが見られたが、新しい医師との信頼関係をつくるべく職員が努力しているところである。
項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印) 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	橋本理事長は有料老人ホームにおいて医療に当たっており、認知症患者に関する知識、経験とも豊富であり、適切な医療を提供している。	
	○看護職との協働		

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	法人内の有料老人ホームに常駐している看護師が2週1回のペースでホームに巡回しており、入居者の健康管理にあたっている。さらに、看護師は携帯電話を24時間携帯し、いつでも相談に当たれるよう待機している。	○	特に夜間の入居者の状態変化について看護師に迅速に相談出来る事は職員にとっても非常に安心出来る。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先の病院と連携を取り合い、病状に応じてホーム帰居の対応に心がけている。	○	入院後も本人や家族の不安を和らげ、長期的な介護の視点に立っての助言・協力を惜しまず、信頼関係を維持していく努力をしていきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時契約に、医療加算と終末期医療に関する説明、同意書を交わしており、また必要な時期には面接や電話連絡において医師、ホーム、家族、ご本人の意識と方針の共有を図っていく。	○	医師・看護師と相談しながら、入居者の最善の方法を考えていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	出きる限り馴染みの環境の中で、ご本人が安心して、残された力を活かして暮らせる事を大切に考えている。また、ホーム内での医療の限界も冷静に見極めていく必要も感じている。	○	ホームでの医療面の限界と家族の意向、本人の安楽等、総合的に判断して取り組んでいこうと考えている。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	転居後も家族と連絡を取り合い、支援を続けていきたい。	○	転居後もできる限り関係を継続し、本人のケアに有効な支援を続けていきたいと職員一同心がけている。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に年長者に対する言葉かけをするよう努め、誘導が必要な場合にも指示的な言動を避ける事を徹底している。記録には個人情報を配慮してイニシャルで記する事にしている。	○	日頃から職員が最も配慮すべき点であると心がけ業務に当たっている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員の意向を優先させるのではなく、入居者の意思表明を気長に待つ支援に留意している。また、できるだけスタッフはマンツーマンの関わりの機会を作り、率直な意思表明を引き出す努力をしている。	○	趣味嗜好など個別に対応する事で得られた情報を共有化して、外食や買い物の機会に役立てている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の体調に留意しつつ、ひとりひとりのペースを尊重した暮らしに努めている。	○	現在は個々の日課が自然に出来上がり、個々の趣味や日課に没頭する姿も見られ、家庭的な雰囲気がかもし出されている。共同生活としての全体性と個人の自由さのバランスの取り方が課題でもある。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	定期的に訪問美容を利用しこだわりがある方は希望の美容院に出かけたり、髪染め希望には職員も支援する等、本人の意向を尊重するよう努めている。	○	訪問美容師が定着し、入居者との親密さが芽生えている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日活発な調理風景がみられており、入居者はほぼ全員調理に参加、張り合いを持っているように見受けられる。男性入居者も自発的に配膳や片付けに参加している。	○	入居者の活発なお手伝いをより円滑にするため、最近では調理当番制にして、当番以外は別の作業をしていただくなど、嬉しい工夫が職員に必要なになっている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	正月・夏祭りなどには酒を提供し気分転換が図れるようにしている。	○	時に入居者の希望に沿って、手作りのおやつ作りを楽しむ機会を作っている。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	おむつ・パットの使用による負担が最小になる工夫や排泄パターンを見極め、むやみな声かけをしない工夫をしている。	○	今後も失禁予防に努めていきたい。
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	おおむね1日おきのペースで体調に応じて入浴を実施している。	○	季節に応じて入浴剤や菖蒲湯を用い、楽しい入浴を提供しようと努めている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	それぞれの習慣や体調を尊重して安眠できるよう努めている。日中は散歩・体操や家事活動で身体を動かすことで、夜間の安眠を促す努力をしている。	○	できるだけ自然な形で夜間の安眠を促したく、夜勤者が工夫を重ねている。

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各入居者の生活歴をかんがみ、昔とった杵づかを活かし、役割や娯楽を日課に取り入れる工夫を重ねている。家庭菜園、カラオケ、囲碁将棋、手芸など、趣味活動が広がりつつある。	○	現在の支援にとどまらず、新しい発見をする努力もしていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	主に大きな金銭管理は事務室にて行っているが、入居者には小銭を身近に所持していただくことで安心感を持てるよう配慮している。買い物や外食の際には、ご自身でお金を払っていただくなどし、社会性や遂行能力の維持に努めている。	○	衣類や小物など欲しいと思うものを遠慮なく職員に云える関係作りができてきた。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調に応じて、近隣の散歩、食料品の買い物や外食など、できるだけ戸外へ出かけることにより、体力や歩行能力の維持に加え、気分転換や日々の充足感を得られるよう配慮している。	○	毎週火曜日は近くのケアプラザへ散歩を兼ねて数名が翌日のパンを買いこいく日課が約2年続いている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に一度のペースで、数人での自動車での外出の機会を確保し、気分転換を図っている。また家族の協力が得られる場合には、家族とのみずいらずの外出や、帰宅・外泊の機会がもてるよう、協力をしている。	○	昨秋から約半数の入居者が公共バスを利用しての外出ができています。車での外出以上にバス利用を喜んでいるようすである。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	---------------------------------	------	----------------------------------

63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	申し出があれば家族・知人に電話をする支援をしている。ご本人から申し出がない場合では、遠方に家族がいる入居者には、頃合をみて電話をする支援を心がけている。		
----	--	--	--	--

	○家族や馴染みの人の訪問支援	いへては、歓迎して訪問を受け入れ、心より清慮なご本人に		
--	----------------	-----------------------------	--	--

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも歓迎し訪問を受け入れゆとり遠慮なく本人と過ごせるよう配慮している。面会室などはないが、ご本人の居室や、共有のリビングで過ごせる雰囲気作りに配慮している。	○	入居者の中には面会者がいない方もおり、寂しさを感じさせない配慮が必要でもあり、職員が工夫している。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束の弊害を理解し、見守りの必要な入居者にも、手厚いマンツーマンの対応をする事で拘束の必要のない介護を工夫している。	○	入居者が高齢化する今後は、事故防止に向け、職員の連携を更に強める必要があると思う
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	構造上、玄関はオートロックのドアであるが庭の水まきや散歩など、職員の見守りの上で、自由に出入りできる雰囲気を大切にし、閉塞感がないように配慮している。	○	安全に配慮しながら、水撒きや菜園作業を入居者の意思を尊重して自由に行っていたらいい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜共に、職員はさりげなく全体を見守りやすい位置にいて、入居者の様子を把握出来るよう心がけている。夜間は2時間ごとの巡視をおこない、事故や急変に備えている。	○	夜勤中は状況に応じ1F2Fの協力体制を強化している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみ・包丁等、日常生活上必要なものは、入居者の状態に応じて、臨機応変に使用していただいている。ただし保管は決まった場所に徹底している。	○	刺し子や裁縫をしている入居者がいるので、針の管理には特に留意している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒・誤薬等事故を未然に防ぐ細心の配慮を全職員が心がけている。入居者の身体能力や理解力を適切に見極め、行動を予測して、過剰管理にならないような介入を心がけている。	○	時に誤薬することがあったが常に基本に戻り、慣れからの軽率な対応をいましめている。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的な訓練は行えていないが、急変時初期対応はマニュアル化し、周知徹底している。今年から法人内での研修が開始されている。	○	応急処置等の講習会への参加や、ホーム内での勉強会の実施をしている。
	○災害対策	地域の避難場所を確認し、緊急移動用の車検を確保して		

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の避難場所を確認し、緊急移動用の準備を整えている。また、緊急時は職員を招集できるよう、連絡網を作成している。以前から住んでいる地域住民の親身な協力が、緊急時にも生かされることにも期待している。	○	消防計画を作成し、訓練を実施している。また、地域の防災訓練などには積極的に参加したい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	つまづき、転倒など身体状況に応じてのリスクを家族に説明し、必要な際は安全な履物を工夫したりベッド柵を使用するなど、事故を未然に防ぐ努力をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタル測定をし、普段との比較で体調を観察。必要な場合は申し送り等での情報の共有を徹底している。また、少しでも異常や疑問を感じる際には、看護師や主治医の携帯電話に連絡・相談し、適切な対応に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとりひとりの処方箋・説明書をファイルして全員が把握出来る様にしてある。薬の変更の際にも理由等を連絡ノートに記載し、職員全員が把握・状態観察に努めている。	○	服薬変更による不穏の軽減・夜間の安眠など職員間での情報共有に努めている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝冷たい牛乳をすすめたり、体操をするなど工夫をしている。個人差はあるが、おおむね便秘が3日続くと看護師に相談・指示を仰いでいる。	○	最近では便秘がちな入居者にはセンナ茶をすすめ効果が見られている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアの声かけをし、支援が必要な方には手助けをしている。入居当初は口腔ケアの習慣の無かった方も、ホームに来て、徐々に口腔ケアの習慣を身につけた方もいる。	○	職員の連携により援助が必要な方への食後の口腔ケアの励行が定着してきている。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日を通して食事量・水分摂取量を記録、一月に一度は体重測定をし、低栄養や脱水におちいらないよう配慮している。糖尿病などで栄養管理の必要な方にも、医師の指示のもと、適切に支援をしている。	○	摂食障害が懸念される入居者には、盛り付けの工夫、声かけで十分な食事摂取に努めている。
	○感染症予防	保健師からの感染症予防の講習会には積極的に参加		

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	保健所などの感染症予防の講習会には、積極的に参加し、感染予防策について職員に周知している。また、主治医・看護師より感染予防策についての資料の提供と具体的な助言を受けて、実施している。	○	食事前の手のアルコール消毒を励行している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具やキッチンの消毒を毎日行う事を徹底し、食中毒予防には細心の注意を払っている。当日の食材は残さないで処分し、肉や魚は短期間でも冷凍保存するなど食品の安全には特に留意している。入居者にも、うがい・手洗い・消毒の徹底に協力していただいている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花の鉢を入居者と共に植えるなど家庭的な玄関回りになる工夫をしている。緑の多い住宅街であるため、周りの雰囲気に合わせて、緑多い、あたたかな雰囲気のホームを目指している。	○	入居者主体で毎日玄関周りの清掃と鉢の水やり等が日課として定着している。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適性に配慮してBGMになじみの曲を流し、季節の花を飾るなどの工夫をしている。日差しはカーテンで調整している。	○	入居者の年代に心地よいBGMが穏やかな雰囲気づくりに役立っている。季節毎にテーブルかけを替え、気分転換を図っている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、ソファで気の合う同士座ったり、テラスで日向ぼっこができる様にベンチを置くなど、お好きな所でのんびり過ごせるよう配慮している。また、あえてリビングに背中を向ける席を設け、他者の視線から逃れる空間を作り、共同生活におけるストレスの軽減に配慮している。	○	足を伸ばせるコーナーを作ったり、手芸をするなど、ソファが多様な効用をはたしている。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居段階で、ご自宅から使い慣れた家具類を持ち込んでいただけるようお勧めし、馴染みの雰囲気で、自宅であるという実感と安心感を得られるよう、配慮している。仏壇や、思い出の写真なども飾り、これまでの生活の延長として暮らせる配慮をしている。	○	毎月、本人手作りのカレンダーを壁に貼り、居室の装飾として喜ばれている。
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>入居者の体調を十分に考慮して換気・温度調節を図っている。トイレは常に換気して気になる臭いの除去に努めている。</p>	○	<p>毎日入居者と共に居室の清掃を心がけ、晴れた日は窓をあけて換気も促している。</p>
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内部はバリアフリーで廊下・トイレ・浴室に手摺りを設置しており、歩行空間には障害物がないよう配慮し安全が保てるようにしている。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>わかる事・できる事を適切に把握し、個々の入居者に合わせた対応に努めている。できる事には、先取り介助をしないよう職員に周知している。</p>	○	<p>一日を通してなるべく全ての入居者にお手伝いをお願いし、張り合いを持っていただけるよう工夫に努めている。</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>玄関前や庭で園芸作業をする事が日課となっている方もおり、ベランダでそれを眺めたり、日向ぼっこをしたりを楽しみとしている方もいる。また、晴れた日には布団や洗濯物を干したりという、ごく家庭的な風景が、日常的にみられる。</p>	○	<p>ベランダや庭での洗濯干しが入居者の楽しみな作業になっている。安全に配慮しながら続けていきたい。</p>

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

我々職員が最も留意しているのは、職員が忙しく働かない事。入居者が出来る事は入居者にしていただく、彼らと共に日課活動をする事、過介護を避け、肌が触れる近くで入居者の話に耳を傾け、共感する事。それが職員の仕事であると徹底に努めている。各入居者の「出来る事」の発見に努め「出来る事」の維持を援助目的にしている。車椅子利用の方は座って出来る事を、男性の入居者には植木の水やりを等々、それぞれに役割と張り合いを持って生活できるよう、職員は日々工夫を重ねている。昨秋、公共バスを利用して約半数の入居者が青葉台への外出を試み安全に帰居した。数年ぶりにバスに乗った事を喜ばれ、後日も楽しそうな話題になったので、以来、月に1度はバスを利用しての昼食会やカラオケを実践している。能動的にふつうの暮らしができることを実感していただくよう努めている。

また、真冬・真夏を除き週に6日、シルバークラブの厚意で実施しているラジオ体操参加も得難いチャンスである。参加数は体調にもよるが約半数、朝の楽しみな日課として定着している。入居者の体調維持に大いに効果ありと感謝にたえない。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的にかつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ふあいと青葉
(ユニット名)	2F
所在地 (県・市町村名)	神奈川県 横浜市 青葉区 奈良町 2467-5
記入者名 (管理者)	中山倫子
記入日	平成 21 年 6 月 27 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

↓

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	<p>自治会・シルバークラブの厚意により毎朝(日曜日除く)近くの公園でラジオ体操に参加している。今後もさらに積極的に地域に溶け込む機会を作りたい。その送迎ボランティアの方々と入居者は親密の度合いが増してきている。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	<p>各入居者の残存能力の発見に努め、出来る事の維持に努めていきたい。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	○	<p>自治会の月1回実施される委員会に参加して地域との協力・連携を深めたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	○	<p>毎朝のラジオ体操参加の際は、送迎のボランティアの厚意を受けている。また、囲碁ボランティアの来訪があり、入居者が心待ちにしている。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	<p>自治会や近くのケアプラザでの行事には入居者が喜んで参加している。今後はグループホームへ地域の方々を招く行事を考えたいと検討している。</p>
項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症の通所介護的な拠点となれるよう検討していきたい。	○	定期的実施する運営推進会議を通して地域の高齢者福祉(医療)の協力者になれるように努力したい。
---	--	-----------------------------	---	--

3. 理念を実践するための制度の理解と活用

7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	年に一度の外部評価が全職員の格好のふり返りに役立っている。	○	自己評価での振り返り・反省が次のステップにつながるよう、職員が一丸となる必要を強く感じている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2～3ヶ月に1度実施している運営推進会議での意見交換を有意義に考えている。4月実施の会議では、自治会の防災委員の出席を得て、防災の協力体制を改めて確認できた。	○	委員の好意的意見・アドバイスを職員の士気高揚に結びつけ、さらなる業務の励みにしたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	特に近隣の奈良地域ケアプラザとは連絡を取り合い、指導を受ける機会を作っている。	○	今後も包括支援センターを介して行政と連携し、サービスの向上を図っていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度の利用を検討している入居者がいるので、職員も共に学ぶ機会を持った。	○	間近にあり得る実践として捉え、学習を深めていかねばならない。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会を行い、細心の注意を払って介護に努めている。介護者が意図せぬ行為が広義の虐待にあたることもあることも留意している。	○	介護者の心身の健康を保つことが安定した介護につながることを、更に肝に銘じ、職場の環境作りを努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	---------------------------------	------	----------------------------------

4. 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約書・重要事項説明書を通して詳しく説明を行い、疑問を残さず入居していただく努力をしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は出来る限り利用者と個別にコミュニケーションをとるよう努め、そこで得た意見を尊重している。また、行政と管理者の連絡先を苦情相談窓口として玄関先に明記している。	○	食事の好み・外出希望等日常的に入居者の意見・要望を表明できる関係作りを心がけている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や電話などで折に触れ、連絡を密にする努力をしている。	○	不定期でお便りや日頃の様子の写真を郵送しているが、定期的な発行をしたいと検討中。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望を遠慮なく表明していただける関係作りを心がけている。契約書にも相談窓口の連絡先を明記し、また匿名でも意見を表明できるよう意見箱を設置している。	○	面会や電話を通して家族等の意見・要望を聞くよう努め、可能な限り要望に沿うようにしている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回介護職員会議を実施し、話し合う機会を作り検討、改善を図っている。必要があれば毎月行われる法人のグループホーム会議に議題として提案している。	○	今年度から3ヶ月に1度法人のリーダー会議を実施することになり、より多様な意見交換が前向きに出されることを期待している。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の体調変化等に応じて、必要ならばシフトの調整を図り、入居者様の安全確保に努めている。	○	ユニットに限定せず、全職員が2ユニット入居者の状態変化に対応できるよう努めている。夜勤者は1, 2F協力しあう事も徹底している。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	止むを得ずの異動、離職は免れないが、入居者への支援が損なわれぬよう配慮している。	○	産休、育休を経て2年ぶりに復職した職員を入居者は喜んで迎え入れ、また退職した元職員が時折訪ねて入居者と交流を図ることもある。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み			

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会に属し、他ホームとの交換研修を実施している。また近隣のケアプラザとは連携を密にしている。	○	他ホームとの交換研修で視野の拡大、自身のふり返りができ有意義だった。近隣の奈良地域ケアプラザにも研修をお願いし、集団でのレク活動の運営を学ぶ機会をもった。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人内で親睦会があり、交流と気分転換を図る機会を作っている。	○	管理者は意識的に職員とのマンツーマンの話し合いの機会を設け、意見交換・ストレス解消ができるよう努めたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は日報を確認し、職員の勤務状況を把握している。入社時の研修やレポートを通しての意思表明を推進し、また定期的に全職員の自己評価を実施。努力や実績を公平に評価している。	○	今年度からユニットのリーダー会議が3ヶ月に1度実施することにより、より現場の声が運営者に届くことが期待される。

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居者宅を訪問してお話を聴く機会を作っている。さらにできる限りグループホームの見学をしていただき、安心感を得られるよう努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居者宅への訪問・ホームの見学・電話相談など納得いくまで相談を受け容れる配慮をしている。	○	最近入居の家族は、入居前数ヶ月にわたり相談されるというケースもあった。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の心身の状況を客観的・長期的に把握し、ご本人にとって最善の生活ができるよう支援している。		

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホーム見学の際、既入居者様の輪に加わってお茶を飲んだり一緒に談話するという機会を作って、ホームの雰囲気になじめるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常業務で常に留意していることは、職員は介護するのではなく、共に生活する視点を保つこと。伝統行事・家事に関すること・人とかかわり合い方など、入居者から学ぶ姿勢を失わないよう努めている。	○	新しく入職した職員にも特に指導を強調している点である。今後も現在の視点を継続していきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の意向を常に尊重した支援に努めている。	○	昨年は敬老の日のお祝いに家族の日本舞踊の参加があり、おおいに盛り上がった会となった。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前の関係を理解するように努め、入居したことで、今までとは異なる良好な関係になるよう配慮している。	○	認知症の行動により、入居前は緊迫した関係にあった入居者と家族がグループホームでの生活により、穏やかな面会を過ごす事ができた例がいくつも見られている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方から入居された方もあり、以前のなじみの場への再訪は困難だが、なじみの方への電話のやり取りなどは継続する配慮をしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ウマが合う、合わないの関係が見え隠れするようになったが、孤独感を抱かず、折り合っでの共同生活の環境作りを日々工夫している。	○	家事参加の仕方で時にいさかいが生まれるが、職員はそれを一過性のものとして捉えるようにし、衝突の予防に工夫をしている。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期療養型病院に入院し、退居した入居者がいるが、時折職員が見舞ったり、家族から近況の連絡を受けたりの関係が続いている。	○	今後も退居した入居者のお誕生日などはお祝いの声かけなどして、入居者も含め関係を継続していきたい。

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員はできる限り個別にコミュニケーションをする努力をし、各人の考えや希望を生活に反映させる工夫をしている。	○	外食・カラオケなど入居者それぞれの希望を可能な限り実現する調整をしている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前面談で、必要な生活歴等は把握している。入居後は職員と関係を深める中で、さらに情報を得よう努力している。	○	日々できる限り個別にコミュニケーションを図ろうと努めている。ゆっくり対応する事で、問わず語りに入居者は生活歴を話すようになり、職員との関係作りから得た情報は、申し送りや連絡ノートで情報の共有化に努めている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	記録や申し送りで情報の共有化に努めている。	○	今年度も、全職員の課題が情報の共有化・ケアの統一であり、日々努力しているところである。

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族と話し合う機会を持ち、望ましいケアプラン作成を心がけている。	○	入居者を深く観察し、望ましい生活を継続していただくため、全職員がケアプラン作成ができるよう勉強会を始めている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	具体的・現実的なケアプラン作成に努めている。変化に応じて見直しを図っている。	○	日常的な介護の対応変化は申し送り等で柔軟に変更し各人の状況に応じるよう留意している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活記録・連絡ノート・申し送り等で情報の共有に努め、ケアプランへの導入・実践に努めている。	○	些細な状態変化でも見過ごさないよう、各職員の観察力の強化を課題としている。

3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居前の相談の段階から、経験豊富な相談員が、行政や他事業所の利用も紹介しながら、最善の支援を心がけている。	○ 年毎に入居者の高齢化に伴い、病状に応じて生活のあり方を家族と相談し法人内の看護師とも連携を深めていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近隣のケアプラザ、地区センターの行事には地域住民の一員として参加し、入居者の社会性の維持を図っている。近隣の交番に、必要時に捜索等協力していただけるよう、依頼している。	○ 非常勤職員に民生委員がおり、地域とのパイプ役を果たしている。地域の防災委員と連携をとり災害時の避難の協力体制を構築する取り組みを始めている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他事業所のケアマネージャーとも連絡を取り合い、関係作りをしている。	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	奈良地域ケアプラザの地域包括支援センターから、運営推進会議のオブザーバーとして参加していただいている。	○ 包括支援センターが近くにあり、何かと相談に乗っていただいている。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内のつくいけ内科の週一回の医師の往診、二週に一回看護師の訪問で、入居者の医療面の支援が継続的にできている。	○ 昨夏以来往診医師が変更になり、入居者に戸惑いが見られたが、新しい医師との信頼関係をつくるべく職員が努力しているところである。
項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印) 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	橋本理事長は有料老人ホームにおいて医療に当たっており、認知症患者に関する知識、経験とも豊富であり、適切な医療を提供している。	
	○看護職との協働		

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	法人内の有料老人ホームに常駐している看護師が2週1回のペースでホームに巡回しており、入居者の健康管理にあたっている。さらに、看護師は携帯電話を24時間携帯し、いつでも相談に当たれるよう待機している。	○	特に夜間の入居者の状態変化について看護師に迅速に相談出来る事は職員にとっても非常に安心出来る。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先の病院と連携を取り合い、病状に応じてホーム帰居の対応に心がけている。	○	入院後も本人や家族の不安を和らげ、長期的な介護の視点に立っての助言・協力を惜しまず、信頼関係を維持していく努力をしていきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時契約に、医療加算と終末期医療に関する説明、同意書を交わしており、また必要な時期には面接や電話連絡において医師、ホーム、家族、ご本人の意識と方針の共有を図っていく。	○	医師・看護師と相談しながら、入居者の最善の方法を考えていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	出きる限り馴染みの環境の中で、ご本人が安心して、残された力を活かして暮らせる事を大切に考えている。また、ホーム内での医療の限界も冷静に見極めていく必要も感じている。	○	ホームでの医療面の限界と家族の意向、本人の安楽等、総合的に判断して取り組んでいこうと考えている。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	転居後も家族と連絡を取り合い、支援を続けていきたい。	○	転居後もできる限り関係を継続し、本人のケアに有効な支援を続けていきたいと職員一同心がけている。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に年長者に対する言葉かけをするよう努め、誘導が必要な場合にも指示的な言動を避ける事を徹底している。記録には個人情報を配慮してイニシャルで記する事にしている。	○	日頃から職員が最も配慮すべき点であると心がけ業務に当たっている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員の意向を優先させるのではなく、入居者の意思表明を気長に待つ支援に留意している。また、できるだけスタッフはマンツーマンの関わりの機会を作り、率直な意思表明を引き出す努力をしている。	○	趣味嗜好など個別に対応する事で得られた情報を共有化して、外食や買い物の機会に役立てている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の体調に留意しつつ、ひとりひとりのペースを尊重した暮らしに努めている。	○	現在は個々の日課が自然に出来上がり、個々の趣味や日課に没頭する姿も見られ、家庭的な雰囲気がかもし出されている。共同生活としての全体性と個人の自由さのバランスの取り方が課題でもある。

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	定期的に訪問美容を利用しこだわりがある方は希望の美容院に出かけたり、髪染め希望には職員も支援する等、本人の意向を尊重するよう努めている。	○	訪問美容師が定着し、入居者との親密さが芽生えている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日活発な調理風景がみられており、入居者はほぼ全員調理に参加、張り合いを持っているように見受けられる。男性入居者も自発的に配膳や片付けに参加している。	○	入居者の活発なお手伝いをより円滑にするため、最近では調理当番制にして、当番以外は別の作業をしていただくなど、嬉しい工夫が職員に必要なになっている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	正月・夏祭りなどには酒を提供し気分転換が図れるようにしている。	○	時に入居者の希望に沿って、手作りのおやつ作りを楽しむ機会を作っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	---------------------------------	------	----------------------------------

56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	おむつ・パットの使用による負担が最小になる工夫や排泄パターンを見極め、むやみな声かけをしない工夫をしている。	○	今後も失禁予防に努めていきたい。
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	おおむね1日おきのペースで体調に応じて入浴を実施している。	○	季節に応じて入浴剤や菖蒲湯を用い、楽しい入浴を提供しようと努めている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	それぞれの習慣や体調を尊重して安眠できるよう努めている。日中は散歩・体操や家事活動で身体を動かすことで、夜間の安眠を促す努力をしている。	○	できるだけ自然な形で夜間の安眠を促したく、夜勤者が工夫を重ねている。

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各入居者の生活歴をかんがみ、昔とった杵づかを活かし、役割や娯楽を日課に取り入れる工夫を重ねている。家庭菜園、カラオケ、囲碁将棋、手芸など、趣味活動が広がりつつある。	○	現在の支援にとどまらず、新しい発見をする努力もしていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	主に大きな金銭管理は事務室にて行っているが、入居者には小銭を身近に所持していただくことで安心感を持てるよう配慮している。買い物や外食の際には、ご自身でお金を払っていただくなどし、社会性や遂行能力の維持に努めている。	○	衣類や小物など欲しいと思うものを遠慮なく職員に云える関係作りができてきた。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調に応じて、近隣の散歩、食料品の買い物や外食など、できるだけ戸外へ出かけることにより、体力や歩行能力の維持に加え、気分転換や日々の充足感を得られるよう配慮している。	○	毎週火曜日は近くのケアプラザへ散歩を兼ねて数名が翌日のパンを買いこいく日課が約2年続いている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に一度のペースで、数人での自動車での外出の機会を確保し、気分転換を図っている。また家族の協力が得られる場合には、家族とのみずいらずの外出や、帰宅・外泊の機会がもてるよう、協力をしている。	○	昨秋から約半数の入居者が公共バスを利用しての外出ができています。車での外出以上にバス利用を喜んでいるようです。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	---------------------------------	------	----------------------------------

63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	申し出があれば家族・知人に電話をする支援をしている。ご本人から申し出がない場合では、遠方に家族がいる入居者には、頃合をみて電話をする支援を心がけている。		
----	--	--	--	--

	○家族や馴染みの人の訪問支援	いへては、歓迎して訪問を受け入れ、心より清慮なご本人に		
--	----------------	-----------------------------	--	--

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも歓迎し訪問を受け入れゆとり遠慮なく本人と過ごせるよう配慮している。面会室などはないが、ご本人の居室や、共有のリビングで過ごせる雰囲気作りに配慮している。	○	入居者の中には面会者がいない方もおり、寂しさを感じさせない配慮が必要でもあり、職員が工夫している。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束の弊害を理解し、見守りの必要な入居者にも、手厚いマンツーマンの対応をする事で拘束の必要のない介護を工夫している。	○	入居者が高齢化する今後は、事故防止に向け、職員の連携を更に強める必要があると思う
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	構造上、玄関はオートロックのドアであるが庭の水まきや散歩など、職員の見守りの上で、自由に出入りできる雰囲気を大切にし、閉塞感がないように配慮している。	○	安全に配慮しながら、水撒きや菜園作業を入居者の意思を尊重して自由に行っていたらいい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜共に、職員はさりげなく全体を見守りやすい位置にいて、入居者の様子を把握出来るよう心がけている。夜間は2時間ごとの巡視をおこない、事故や急変に備えている。	○	夜勤中は状況に応じ1F2Fの協力体制を強化している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみ・包丁等、日常生活上必要なものは、入居者の状態に応じて、臨機応変に使用していただいている。ただし保管は決まった場所に徹底している。	○	刺し子や裁縫をしている入居者がいるので、針の管理には特に留意している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒・誤薬等事故を未然に防ぐ細心の配慮を全職員が心がけている。入居者の身体能力や理解力を適切に見極め、行動を予測して、過剰管理にならないような介入を心がけている。	○	時に誤薬することがあったが常に基本に戻り、慣れからの軽率な対応をいましめている。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的な訓練は行えていないが、急変時初期対応はマニュアル化し、周知徹底している。今年から法人内での研修が開始されている。	○	応急処置等の講習会への参加や、ホーム内での勉強会の実施をしている。
	○災害対策	地域の避難場所を確認し、緊急移動用の車検を確保して		

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の避難場所を確認し、緊急移動用の準備を整えている。また、緊急時は職員を招集できるよう、連絡網を作成している。以前から住んでいる地域住民の親身な協力が、緊急時にも生かされることにも期待している。	○	消防計画を作成し、訓練を実施している。また、地域の防災訓練などには積極的に参加したい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	つまづき、転倒など身体状況に応じてのリスクを家族に説明し、必要な際は安全な履物を工夫したりベッド柵を使用するなど、事故を未然に防ぐ努力をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタル測定をし、普段との比較で体調を観察。必要な場合は申し送り等での情報の共有を徹底している。また、少しでも異常や疑問を感じる際には、看護師や主治医の携帯電話に連絡・相談し、適切な対応に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとりひとりの処方箋・説明書をファイルして全員が把握出来る様にしてある。薬の変更の際にも理由等を連絡ノートに記載し、職員全員が把握・状態観察に努めている。	○	服薬変更による不穏の軽減・夜間の安眠など職員間での情報共有に努めている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝冷たい牛乳をすすめたり、体操をするなど工夫をしている。個人差はあるが、おおむね便秘が3日続くと看護師に相談・指示を仰いでいる。	○	最近では便秘がちな入居者にはセンナ茶をすすめ効果が見られている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアの声かけをし、支援が必要な方には手助けをしている。入居当初は口腔ケアの習慣の無かった方も、ホームに来て、徐々に口腔ケアの習慣を身につけた方もいる。	○	職員の連携により援助が必要な方への食後の口腔ケアの励行が定着してきている。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日を通して食事量・水分摂取量を記録、一月に一度は体重測定をし、低栄養や脱水におちいらないよう配慮している。糖尿病などで栄養管理の必要な方にも、医師の指示のもと、適切に支援をしている。	○	摂食障害が懸念される入居者には、盛り付けの工夫、声かけで十分な食事摂取に努めている。
	○感染症予防	保健師による感染症予防の講習会には積極的に参加		

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	保健所などの感染症予防の講習会には、積極的に参加し、感染予防策について職員に周知している。また、主治医・看護師より感染予防策についての資料の提供と具体的な助言を受けて、実施している。	○	食事前の手のアルコール消毒を励行している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具やキッチンの消毒を毎日行う事を徹底し、食中毒予防には細心の注意を払っている。当日の食材は残さないで処分し、肉や魚は短期間でも冷凍保存するなど食品の安全には特に留意している。入居者にも、うがい・手洗い・消毒の徹底に協力していただいている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花の鉢を入居者と共に植えるなど家庭的な玄関回りになる工夫をしている。緑の多い住宅街であるため、周りの雰囲気に合わせて、緑多い、あたたかな雰囲気のホームを目指している。	○	入居者主体で毎日玄関周りの清掃と鉢の水やり等が日課として定着している。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適性に配慮してBGMになじみの曲を流し、季節の花を飾るなどの工夫をしている。日差しはカーテンで調整している。	○	入居者の年代に心地よいBGMが穏やかな雰囲気づくりに役立っている。季節毎にテーブルかけを替え、気分転換を図っている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、ソファで気の合う同士座ったり、テラスで日向ぼっこができる様にベンチを置くなど、お好きな所でのんびり過ごせるよう配慮している。また、あえてリビングに背中を向ける席を設け、他者の視線から逃れる空間を作り、共同生活におけるストレスの軽減に配慮している。	○	脚を伸ばせるコーナーを作ったり、手芸をするなど、ソファが多様な効用をはたしている。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居段階で、ご自宅から使い慣れた家具類を持ち込んでいただけるようお勧めし、馴染みの雰囲気で、自宅であるという実感と安心感を得られるよう、配慮している。仏壇や、思い出の写真なども飾り、これまでの生活の延長として暮らせる配慮をしている。	○	毎月、本人手作りのカレンダーを壁に貼り、居室の装飾として喜ばれている。
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>入居者の体調を十分に考慮して換気・温度調節を図っている。トイレは常に換気して気になる臭いの除去に努めている。</p>	○	<p>毎日入居者と共に居室の清掃を心がけ、晴れた日は窓をあけて換気も促している。</p>
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内部はバリアフリーで廊下・トイレ・浴室に手摺りを設置してあり、歩行空間には障害物がないよう配慮し安全が保てるようにしている。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>わかる事・できる事を適切に把握し、個々の入居者に合わせた対応に努めている。できる事には、先取り介助をしないよう職員に周知している。</p>	○	<p>一日を通してなるべく全ての入居者にお手伝いをお願いし、張り合いを持っていただけるよう工夫に努めている。</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>玄関前や庭で園芸作業をする事が日課となっている方もおり、ベランダでそれを眺めたり、日向ぼっこをしたりを楽しみとしている方もいる。また、晴れた日には布団や洗濯物を干したりという、ごく家庭的な風景が、日常的にみられる。</p>	○	<p>ベランダや庭での洗濯干しが入居者の楽しみな作業になっている。安全に配慮しながら続けていきたい。</p>

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

我々職員が最も留意しているのは、職員が忙しく働かない事。入居者が出来る事は入居者にしていただく、彼らと共に日課活動をする事、過介護を避け、肌が触れる近くで入居者の話に耳を傾け、共感する事。それが職員の仕事であると徹底に努めている。各入居者の「出来る事」の発見に努め「出来る事」の維持を援助目的にしている。車椅子利用の方は座って出来る事を、男性の入居者には植木の水やりを等々、それぞれに役割と張り合いを持って生活できるよう、職員は日々工夫を重ねている。昨秋、公共バスを利用して約半数の入居者が青葉台への外出を試み安全に帰居した。数年ぶりにバスに乗った事を喜ばれ、後日も楽しそうな話題になったので、以来、月に1度はバスを利用しての昼食会やカラオケを実践している。能動的にふつうの暮らしができることを実感していただくよう努めている。

また、真冬・真夏を除き週に6日、シルバークラブの厚意で実施しているラジオ体操参加も得難いチャンスである。参加数は体調にもよるが約半数、朝の楽しみな日課として定着している。入居者の体調維持に大いに効果ありと感謝にたえない。